

# ちば 千葉ちかこ

2012年 春号

## 通信

第55号

発行 千葉ちかこ励ます会 会津坂下町大字大沖字上野1170-1 電話83-2964

平成24年第1回定例会は、2月23日から3月7日の14日間の日程で開催され、平成24年度当初予算や、糸桜の湯、西部斉苑、ばんげ東・鶴沼緑地公園、老人福祉センターなど指定管理者の委託期間が、今回より5年間（今まで3年間の委託）の委託期間とする指定管理者の指定など27件と補正予算などの追加議案を審議し、一般会計当初予算8,199,000千円を認定しました。

## ～政治は暮らしのためにこそ～

### 千葉ちか子4期目に向け選挙戦頑張っています

今回の議会は、4年に一度の議会改選となる最終議会に当たります。

私は、3期12年の議会活動の中で「政治は暮らしのためにこそ」をモットーに、女性の目線で、働く人の立場に立ち、町民福祉の充実に向け真剣に議会で質問を重ねてきました。

会津坂下町などの末端自治体の身近な問題が、国内外の政治課題と社会情勢に深く結びついている事は言うまでもありません。原発建設の問題や再稼働問題、ゴミ処分場や環境問題など、地方自治体の決定や地元の意見がとても重要で、いかに自治体選挙が重要であるかが分かります。

政策決定の場は、そこに暮らす全ての命あるものの生きる権利を守らなくてはならないという極めて重要な役割を担っています。町議会議員として、政策決定の場に身を置くひとりとして、つねに自問自答しています。

今、会津坂下町は「第一中学校の小学校化の工事」「新設幼稚園の建設」「幼稚園と保育所の区分けの問題」「通学・通園路線バスの問題」や、「人の駅・川の駅・道の駅事業」「原発事故による放射能対策」などなど財政逼迫の中で取り組まなくてはならない課題が山積しており、大変重要な時期を迎えています。

これからも、一生懸命頑張ってお参りますので、千葉ちかこに、なにとぞお力添え賜われますよう、よろしくお願いたします。



# 請願

「保育所同様の幼稚園における預かり保育の完全実施を求める請願について」

〔満場一致の採択〕 紹介議員 千葉親子、斉藤善平、新国善幸、五十嵐正康

## — 保育所保護者会から請願が提出 —

請願事項は、

- 1、「保育所の4～5歳児クラスを幼稚園の預かり保育に移行する際は、保護者の意見を十分に反映し、現在の相違点を解消した上でおこなうこと」
- 2、「相違点が解消されない場合には、保育所の4～5歳児クラスを存続させ保育所の子育て支援の機能を維持する事」とあります。

子育てをしながら共に働く家族が安心して子育てができる保育所機能を、選択肢として残してほしいという切実な声です。議会は、子育て支援、就労支援の意義を重視し満場一致で採択としました。

地域の声、住民の思いを政治に反映させる請願行為が、若い保護者の行動として表れた事は、町政に対する関心度と、暮らしを守る息吹を感じさせ、紹介議員として身の引き締まる出来事でした。

### 一般質問

## 来年から4・5歳児の全員幼稚園移行で待機児解消になるか

**質問** 年齢区分けで保護者に対する説明責任と保育現場、幼稚園現場での意思疎通は。

**答弁** 日下教育部長  
幼稚園や保護者が行ったアンケートを加味し「幼・保」「幼・小」それぞれの年間計画のすりあわせを行った。

**質問** 幼稚園での延長保育の実施状況の評価と今後の課題は。

**答弁** 日下教育部長  
社会環境の変化により預かり保育の希望が増えている。保育所同様の保育を実施する観点から、長期休業中の給食を実施します。



**質問** 保育所と幼稚園の年齢区分で待機児童はどの程度の解消を見込んでいるか

**答弁** 斉藤生活部長  
平成25年度から0～3歳の幼児を保育する事になると、待機児童はなくなるが、現状だと待機児の解消にはならない。0歳児保育が増えると保育士7名が不足します。



## 安心子育てに4・5歳児の保育所での 保育の選択肢も必要

**質問** 保育所同様の預かり保育の実施が不可欠というが、幼稚園での保育所機能は可能か。

**答弁** 日下教育部長  
教育活動時間終了後に行う預かり保育では家庭的雰囲気大切に、保育機能の充実を図っていきます。

**質問** 新設幼稚園に3歳児室が設計されている。3年保育が計画されているのか。通園や給食の問題、延長保育の問題は

**答弁** 日下教育部長  
国の施策として「総合子ども園」

が示され、3歳児用の部屋を設計に追加した。現坂下幼稚園の改修・改築完了後と考えている。通園の方法や給食は開園に向け整備します。

**質問** 今年の幼稚園の延長保育は70名以上と聞く。保護者の希望は保育所機能でないか。

**答弁** 日下教育部長  
幼児教育は人格形成の基礎を培う役割を担っている。幼稚園での保育の重要性の認識を高めて行きます。

## 内部被曝から子どもを守りたい!! 給食の丸ごと検査を

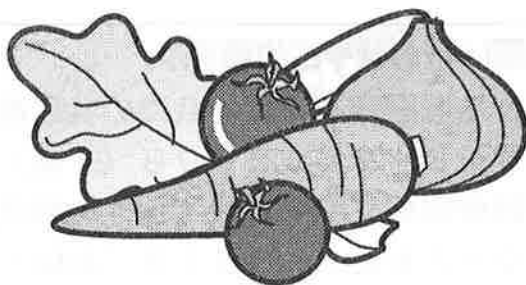
**質問** 放射性物質のサンプル検査とあわせ、丸ごと検査は、積算放射能の数値を明らかにし、内部被曝の低減に役立つ、計測の考えは。

**答弁** 佐藤教育長  
どの程度放射性物質が含まれているか検査する「学校給食モニタリング検査」(丸ごと)を国、県が示す要綱に基づき行います。

## 検査と新たな基準値に対応できるか

**質問** 4月から食品中の放射性物質の暫定基準値変わる現在の町の検査機器で新基準値への対応は。

**答弁** 佐藤教育長  
使用中の検査機器の測定限界値は30ベクレル/kgで新基準に対応可能と認識しています。



## 新設幼稚園は0～5歳児対象の保育・幼稚園施設に!!

平成25年開園の坂下東幼稚園は坂下東小学校（現在の坂下第一中学校）に併設され4～5歳の園児と3年保育も視野にいれた園児180人を想定した幼稚園です。今日の社会情勢のなかで、共働き家庭が増え就労支援が重要になり、保育に欠ける子どもたちの保育所入所希望が多くなっています。その待機児童解消に保育所の4～5歳児を幼稚園に移行をしたいということです。

しかし、働く保護者の多くは保育所への入所希望も多く、幼稚園よりも保育所機能を重視した施設が求められています。新設幼稚園が、0～5歳児の施設であれば、保育所と幼稚園、幼稚園と小学校がトータルして幼児教育の拠点として連携が可能になって行くと思います。おのずと心配される通所・通園問題、給食問題などに関連している諸問題が良い方向となると私は思います。

子どもと、先生、保護者の信頼関係と、子どもも、働く親も先生も、ゆっくりゆったりが、最高の子育てで有ることはいうまでもありません。



## 助産師による被災母子支援事業

赤ちゃんの誕生はとても大きな喜びです。

しかし、東日本大震災とそれにともなう原発事故により福島での生活は様々な面で大変な状況にあり、妊産婦は多くの不安を抱えて過ごしています。特に産後間もない時期は、母の心身の休養が必要であり、赤ちゃんのお世話も大事なときです。生活環境の整った所へ退院し、育児に協力してくれる方がいることも重要です。

助産院では、母子共に安心して健康な生活が遅れますようにサポートいたします。

(助産師会福島支部子育て・女性の健康支援センターより)

この支援事業は、3月31日で支援制度がなくなり実施期間が終わりとなりますが、助産師による被災母子支援の大切さが重要視され、これからも継続させるため、いま、各方面からご寄付や資金援助の支援を求めています。

お産と地域医療を考える会津の会は、県助産師会、お産後入院施設の会津助産師の家お日様の家（会津若松市）、中嶋助産院（南会津田島町）などと連携し、この事業の支援をしています。



### <お問い合わせやご相談先>

お産と地域医療を考える会津の会事務局

090-8424-2398（千葉）

助産師会福島支部子育て・女性の健康支援センター

080-2821-3212（石田）



# ちかこのぼちぼち日記

## 1月

- 5日 会津坂下町新春交歓会
- 7日 消防団出初め式
- 7日 会津自然の家に浜・中通りの小・中学生200名が体験学習で来坂下。もちつき体験で、ボランティアがお手伝いしました。一俵の餅をつき、あんこ餅、きなこ餅、汁餅で食べました。

14～15日

脱原発世界会議（横浜）お産と地域医療を考える会津の会で参加

20日 傾聴講演会 「耳と目と心で聴く傾聴について」



ホールファミリーケア協会の

講師 山田豊吉先生

24日 臨時議会

## 2月

- 18日 県ボランティアフェスティバル（飯坂）
- 25日 坂下一中思い出を語る会（パストラルホール）
- 26日 坂下ボランティア連研修（いわき）四ツ倉・久乃浜等を視察し、地元ボラ連と意見交換会。支援と交流の継続を確認しあった。



2月23日～3月7日

平成24年第一回定例会

（千葉ちかこは28日に一般質問登壇）

任期最終議会です。

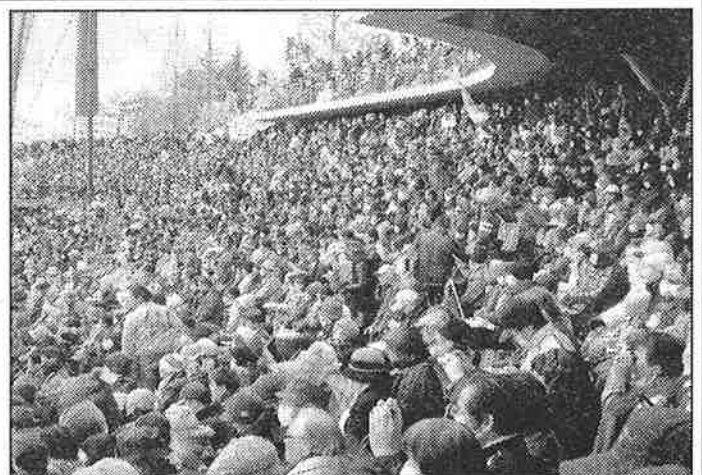
さあ!! 選挙戦も終盤です。

## 原発いらない! 3・11福島県民大集会 ～ 安心して暮らせる福島県をとりもどそう～

原発いらない!の思いと願いを抱え全国から福島原発事故1周年に集まった人で、開成山球場が埋めつくされた。私も参加しました。

加藤登紀子さんのコンサートで始まり、大江健三郎さんの連帯のあいさつ、農業者、漁業者、主婦、高校生などが福島県民の現状を訴え、2時46分犠牲になられた方のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

福島犠牲を無駄にしないために「原発はいらない!」の声を大きく挙げ、全国民に、全世界に向けて集会宣言しました。



郡山市開成山野球場に1万6千人!!

「狸おやじと狐むすめのだましあい」③



狸おやじと親子になって45年経った狐むすめの予感、みごとに的中しました。はじめてのディサービスに気をよくした狸おやじの父だったが、次の利用日に「もうあんな所には行かない」の一点張り。「何で嫌なの」と問いただすと「婆しかいないところになんか行ってられるか!!」と布団を被ってふて寝のしまつです。きつね娘は「何言ってるの。自分だって立派な爺じゃないの」(当時80歳)と、出かかった言葉をグッと飲み込んで、その場は納めた。しかし、時期は6月の梅雨の時、元来、温泉・風呂大好きのお風呂に入れない事に耐えられるはずも無く、いろいろ上手い言葉を並べてその気にさせ、何とか週一回のディサービスに通う事になった。迎えに来るディサービスのスタッフに若い女性がついて来るのも、狸おやじの頑固な気持ちをくすぐっていたようだ。

そんなことのくり返しの中にも、兄の納骨も済み家族は、これから少しゆっくりできるかと思っていた矢先、思いもかけないことが起こりました。それは、夜中の3時頃、狸おやじが110番に意味不明の電話をしていたのです。

警察からの電話に、母は平謝り。母が、何で110番に通報したのかと聞くと、その理由は、



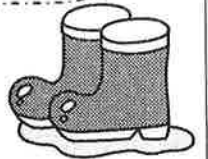
「列車が止まっていたから事故かと思って、親切に教えてあげた」とのこたえに、母が、窓を開け列車はどこにも止まっていないと話すと・・・

「どこを見ているんだ!!列車は二階に(自宅の二階を指差して)止まっている」と怒鳴りだす始末で、母は、完全にパニック状態であった。

さぁ～またまた狐むすめの出番です。 つづく Itou Hisae

エッセー 故 横沢丈夫

「長靴とゴムのり」



自転車タイヤのチューブ=パンク修理用の平ゴムとゴムのりは、いつも下駄箱の中に置いてある。戦中を含めて、戦後しばらくの間は物資不足のため、ゴム長靴などは容易に手に入らなかった。履き物はちびた下駄か藁草履。冬場は藁靴だった。

ようやくゴム製の履き物が買えるようになって、みんな大切に履いた。冬になり長靴を履く時期になると、学校に長靴の修理屋さんに来て、割れたり切れたりした部分を修理してくれたり、希望があれば白エナメルで名前も書いてくれた。

そうした経験をした私は、今も見よう見真似で覚えた方法で、長靴を修理して履いている。

H21・4・27

編集後記

▼早いものであつという間に3期12年が過ぎ「親子通信」も55号となりました▼「多くの方から読んでるよ」と声をかけていただき、本当にうれしくありがたく思っております▼エッセーを書いてくださる横沢さんの文に郷愁を誘われ昔を思い出したと話されるかた、Hさんの介護の話には、相談が寄せられたりしています▼さらに、研鑽して参りますのでご愛読のほど宜しくお願いいたします▼長期化する原発・放射能問題「命こそ宝」沖繩の方言に「ぬちどうたから」いう言葉があります。戦争でたくさんの命が奪われた沖繩県民が「何よりの宝物はこの命」と、戦争の悲劇の中から、生まれた言葉と聞いています▼原発事故から放射能問題と続く災害は、大きな挫折感と怒りと、核の前に人の力がいかに無力であるかを思い知ることになりました▼放射能という見えない弾丸から避難し逃げ惑う県民の姿は、まさに鉄の雨に撃たれると言われた銃弾から逃げる沖繩県民と重なり、「核と人類は共存できない」ことを如実に表わしています▼千葉ちかこは、4期目に向け、長期化する脱原発・放射能問題に取り組み、「命こそ宝!」暮らしを守るため頑張つてまいります。



# ちば 千葉ちかこ

2012年臨時号

## 通信

第56号

発行 千葉ちかこ励ます会 会津坂下町大字大沖字上野1170-1 電話83-2964

## 千葉ちかこ元気に4期目スタート!! ～政策を訴え支持を広げた街頭演説～

この度の会津坂下町議会議員選挙では「千葉ちかこ」必勝にむけ、多くの皆さまにご支援を頂きありがとうございました。

おかげ様で、第2位(798票)の高位で当選することが出来ました。これも一重に皆様のお力添えの賜物であり、心より厚く御礼を申し上げます。

選挙期間中、地域を歩きながら多くの方とお話しをさせていただきました。活動を通して、一様に出された話題は原発事故による放射能への不安と具体的な対策を求める声でした。

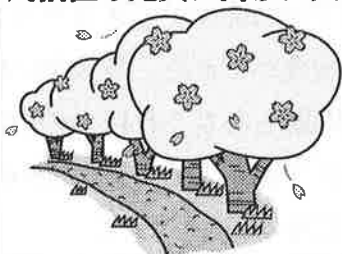
これからの、地域づくり、町づくりに欠かせないテーマは、脱原発・放射能問題が、切り離せない課題だということをおぼろげに学びました。

町政においては、原発事故による風評被害と、実害から農業を初めとする地場産業を守りながら、町民の暮らしをいかに守って行くかが重要な課題となります。

また、幼稚園、小学校、中学校の統廃合による建設改修事業、道の駅建設事業などで町財政の逼迫度合いが増す中にあっても、社会環境の変化のなかで、子育て支援のあり方や、高齢化社会に向けた施策の充実はますます重要になっております。高齢者や次代を担う子ども達のためにも、福祉を身近に感じ、いのちと平和、そして暮らしが大事にされる町づくりの議論をしっかりとしなければならぬと思っています。

千葉親子は「政治は暮らしのためにこそ」をモットーに、女性の目線で、働く人の立場に立ち、町民福祉の充実に向け、共に考え、語り合い、町民皆様の思いを大切に頑張っている決意でおります。皆様の大きなご支援で四度議会へ送っていただきました。初心忘れずのこころを大事にし、負託に応えられるよう努めてまいりますので、今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

お力添えをいただきまして本当にありがとうございました。



# 169名の新入生を迎え 会津坂下町立坂下中学校開校式・入学式

4月6日、一中と二中の統合中学校が旧坂下第二中学校に開校し、169名の新入生が入学しました。教職員47名、全校生徒600名に近いマンモス校となりました。新しい校歌（小椋 佳作曲）が披露され、新しい制服に身を包んだ新入生は、緊張の中にも希望に胸がいっぱいだったことでしょう。



校長先生から生徒と保護者に約束がありました。生徒には、「あいさつがキチンとできて、遅刻をしない、言葉遣いに気をつける」。保護者には、「朝ご飯を食べて、遅刻をさせない、服装に注意」などを、話され、毎日の生活の積み重ねが大事と話されました。

## 不安です!通学バス（公共交通）のバス停留所

4月より運行になった。新規路線バスのバス停留所が、狭い歩道であったり、風吹きすさぶ人家のない所だったり、地区集落説明会と違う位置だったり、各方面から不安・不満のご意見を頂いています。担当部と話をしました。それらのご意見に理解を示しており、実際運行して不備なことも分かってきたので、地元と協議をしながら、早急に検討をするとのことです。



## なぜ進まないか瓦礫処理

「みんなの力で瓦礫処理」という新聞広告が出た。『瓦礫処理が進まないで全国の自治体で処理に力を貸してくれ』ということです。東京で受け入れをして、他の自治体も名乗りを上げているも、住民の反対もありうまく進まない。だから瓦礫の処理が進まないということのようです。

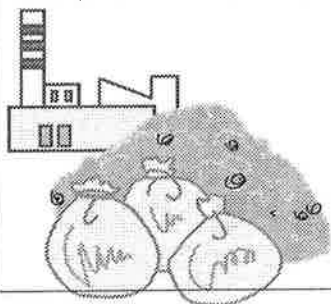
受け入れに反対すると何か心のない非協力的にとられ、『いやだ』と言えないような空気さえ感じます。

瓦礫の量は淡路大震災で2000万トン、東日本大震災は2300万トンと聞いています。

1年後の処理は、東日本大震災が6.7%、阪神淡路が60%、とのことで10倍も違います。

東日本大震災は放射能の問題と広域の災害ということで様には比較できませんが、そんなに変わらない量なのになぜ進まないのか。阪神淡路のときは、震災後3ヶ月で焼却炉15台を神戸や西宮市に増設し、そこで焼却をしたそうです。

仙台市は、震災後すぐにリサイクルの専門家を呼んで、被災地で処理をすることを考え津波被災地に3ヶ所焼却炉をつくり瓦礫処理がもっとも進んだ事例となっているそうです。

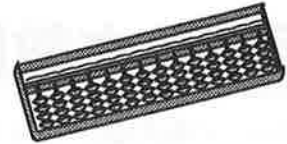


遠くに運ぶ運搬運賃がかからない。一次置き場で分別焼却ができリサイクル率（50%以上）が上がる。焼却灰の放射能検査ができる。被災地に雇用が生まれるなどです。福島県の場合は放射能問題もありこれ以上の放射能の拡散をさせないためにも、遠くにお金をかけて運ぶより、被災地の近くに焼却炉が有るといことが重要なポイントになると思います。



エッセー 故 横澤丈夫

## そろばん



中学生の時、そろばんの時間があつた。読み上げ算では、指先よりも頭で考えてしまうので、どうしてもあの速さには追いついていけない。したがって、「ごめいざん」の経験は一度もない。見取り算にしても、その都度答えが違ふ。なんたることか。

教職についた頃には、運良く卓上計算機が市販される時代になった。当時ある学校で、PTAの会計係を三年間任されたが、お陰で帳簿の記帳も正確にできたし、監査も異状なく認めていただいた。

しかし、計算機を使用するようになってからは、「数概念」の感覚がなおざりになったと感じるようになったのは確かだ。

H21・7・28 書

## 「狸おやじと狐むすめのだましあい」④



狸おやじの110番通報の件で母は、「警察や他の人に迷惑をかけてしまい、私はどうしたらいいのかわからない」とパニック状態になっていた。すぐに、狸おやじの担当ケアマネージャーに相談したところ専門医の受診を勧められた。狐むすめも常々考えていたことだったが、なかなか言い出せないでいたが、待たなしの状況になった。

すぐに、病院勤務の義姉に電話をかけたら、精神科なら1床空いたところだけどすぐ来られるかといわれた。すぐに行くことを約束した、が…さて、どうやって入院の話をするか、今日は木曜日、約束の月曜日まで説得できるか、狐むすめは一晚悩みシナリオを考えた。翌日、狐むすめは千両役者のごとくに、常々父は、亡くなった兄を気にかけていたことを思い、亡き兄の力(脳幹出血で亡くなった)を借りることにした。

「お兄ちゃんのことであつてお父さんの身体のことを心配で検査入院の予約入れておいたんだけど、今朝電話があつて、やっとなベットが空いたと連絡来たけど、どうする？」と芝居を打った。

医者と薬が大好きな狸おやじは、お兄ちゃんのことと「検査入院」という言葉にほろりといき、「そうか、いろいろ心配かけたな。わかった。」とあっさり納得した。

やや拍子抜けだったが、まずはよかつた。入院まで残り3日！

このまま行ってくれるか ハラハラドキドキである。

つづく

Itou Hisae



# 千葉親子文教厚生常任委員会の委員長に就任

改選後初めての臨時議会が4月5日に開催され議会の構成が決まりました。

千葉親子は文教厚生常任委員会委員長に選任されました。合わせて文教厚生委員会は、赤ちゃんから墓場までの住民生活にかかわる幅広い課題を与えられています。責任の重さをしっかり受け止め努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 議会構成

議長 齋藤善平  
副議長 五十嵐一夫

総務常任委員会 委員長 新国善幸  
副委員長 関野俊威

議会運営委員会 委員長 水野孝一  
副委員長 酒井育子

文教常任委員会 委員長 千葉親子  
副委員長 三橋 薫

議会報編集委員会 委員長 五十嵐一夫  
副委員長 佐藤宗太

産業建設常任委員会 委員長 五十嵐正康  
副委員長 山口 享

国民健康保険運営協議会委員 千葉親子



## 編集後記

■三寒四温で春が来るといわれておりますがこのところの寒さで花便りも遅れ気味とか■今回の改選は、「無競争か選挙か」の風吹く中で戦がスタートしました■無競争にならず選挙ができたことは、自らの議員活動に審判をいただき、今後の議会活動のためにも良かったと思います■「上位当選おめでとう」「これからも千葉さんの質問聞きに行くよ」と声をかけられ、うれしい気持ちでいっぱいです■それにしても町議会選挙で67.63%の投票率とは驚きを隠せません■議会に対する叱咤か、選挙中に多くの町民の方から聞かせていただいた声は、諦めに似た閉塞感も多く、いずれにしても町政に係わるものとして、この事実を真摯に受け止め、負託に応えられるよう頑張らなくてはと思っています■どうぞ皆様のご意見をお寄せください、お聞かせください、皆様の生の声が町づくりには大切です■今後ともご支持ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

